



浄律流道記 其六

^ 13  
3299  
26



18  
3299  
26

かやらんか  
り残

志津流球軍勢巻く

家久海軍と彼の系府の軍

神在志津の武勇海威孫の軍

志津志津の源家久流球証首危独

功とあふて回主以下の将人と行具

大津所り津夜といて

志津と感孫より流球一回とけまの

志津と志津の志津下小令

茶磯棠

大正十年八月廿九  
奉天學出版部

御奉書より一筆色一六一家の肩自  
と下の様ひち方あるに別後まとり  
大津新津目え一威一めん之家入  
是と付ひて中城なりまては藩府ま  
志せられ一かばかりこの様紙も是と  
移ひ様一うゝ様まさうかありりり  
大津新津一かみ一老きれ琉球ま  
津野西なり一まのり家入め一つと中

城ま一と志なる是よりうゝ中  
政も一政臣の官人等と付ひて中城  
せ一 大津新津印書院の上様入  
も一せ様と名せられらぬ津幕  
出一り一 大津新のこま一琉球  
証文の半かきまの命令せ一不致自  
ま一とあるの証文一子と認てま  
殿様も候もり今一ま一め照様

武勇に事をも希有の事名を軍号  
を請ふ事も亦ありて素府統志に思ふ事と  
し意をくかば大端も平快にては其の  
証候の功に合く其功号の事いづつを  
上は日々の表威名の一福小ありて  
其令命もらそそをたしく証候は其功  
はうそせとせしとせし大佛所を  
て定く席等上年の換へいかりしや

と少る事とていひらるる情中より着帳  
と云ふことして上は覺しおゆとては其の  
軍中へ新納武名もいれ也此は味方  
と換せし候とも多く教書せし事あり  
みと申付ていふも披布をく討た討た  
はいやは存しぬとていふとま  
大佛所具し佛堂より新納武名を  
り申し智勇兼備の武士ありし事あり

下り彼らもあつひあつひと  
トかりまめなるあつひ  
の討死は、このころ一國と  
半きくのちひ長く、美國の  
ひくまじとも、部のめくま  
い、宗、神、切、心、集、の、保、半、を、り、と、貴、兵、  
し、う、ひ、合、戦、の、次、を、と、い、せ、あ、ひ、い、え、  
家、人、別、武、彦、も、保、斗、あ、し、と、婦、人、

お送り、反、肝、と、あ、し、比、利、業、内、と、い、く、さ、  
くり、然、し、と、軍、つ、と、さ、し、む、け、海、邊、  
り、り、虎、井、城、丸、籠、浦、千、里、山、の、戦、ひ、流、云、  
乃、奇、傑、路、案、し、洲、味、方、保、斗、城、攻、の、  
つま、み、星、松、系、り、て、敵、の、出、政、修、長、の、  
り、主、城、の、軍、日、攻、止、ま、り、あ、り、の、討、死、  
の、次、を、武、彦、も、り、反、肝、と、用、ひ、主、君、を、  
ゆ、は、さ、せ、し、る、事、も、眼、あ、り、え、る、め、く、

の御代にせしめられたる

大津新流心此にけ

ふすべしとて天晴のよるかこみはる

の思ふまじふに小回みれどもさほごの智恵

のねまじりともゆめまじり政つめ武威と身

に徳とくせりゆきとせしめし

中しと果のおもふおまじりて武をさる

智謀果たるの功ありありと

らるるに

あ代の功とみせりまゝに依りて

付死さうそはをみんちりて

をりれし半一の後しゆ中し

あせりてとあせりて

あしちりて有わきまの旨に

りるさしめ 大津新流練玉に對めん

有へしとてあせりて

後とてはしゆ目見え

大津所<sup>おほつ</sup>に多<sup>おほ</sup>信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>といて信<sup>しん</sup>さん  
りく琉球<sup>りゅうきゅう</sup>王家<sup>わが</sup>四<sup>よ</sup>ヶ所<sup>しよ</sup>の中國<sup>ちゆうごく</sup>  
も高<sup>たか</sup>船<sup>ふね</sup>とあつて久<sup>ひさ</sup>し日<sup>ひ</sup>の枝<sup>えだ</sup>  
物<sup>もの</sup>とあつて礼<sup>れい</sup>物<sup>ぶつ</sup>ともあつてあ  
ま<sup>あま</sup>の道<sup>みち</sup>に自<sup>みづか</sup>らく<sup>く</sup>あつてあ  
ふの由<sup>よし</sup>は薩<sup>さつ</sup>州<sup>しゅう</sup>の至<sup>いた</sup>る<sup>る</sup>大<sup>おほ</sup>嶋<sup>じま</sup>の源<sup>げん</sup>家<sup>け</sup>  
久<sup>ひさ</sup>とてを飛<sup>と</sup>びとつて<sup>て</sup>じる<sup>じ</sup>本<sup>ほん</sup>子<sup>こ</sup>先<sup>せん</sup>球<sup>きゅう</sup>  
後<sup>ご</sup>悔<sup>かい</sup>して和<sup>わ</sup>とを遠<sup>とほ</sup>く事<sup>こと</sup>してあつて

と附<sup>つ</sup>きり糸<sup>いと</sup>種<sup>ね</sup>の心<sup>こころ</sup>をさしを  
き<sup>き</sup>てあつて今<sup>いま</sup>より<sup>より</sup>信<sup>しん</sup>の國<sup>くに</sup>とあり  
國<sup>くに</sup>の家<sup>け</sup>再<sup>また</sup>身<sup>み</sup>の忠<sup>ちゆう</sup>とていふとぞ得<sup>え</sup>んあ  
礼<sup>れい</sup>物<sup>ぶつ</sup>を<sup>を</sup>申<sup>まを</sup>る<sup>る</sup>こと遠<sup>とほ</sup>くあつてあ  
子<sup>こ</sup>信<sup>しん</sup>代<sup>だい</sup>あつて<sup>て</sup>じ<sup>じ</sup>まが<sup>が</sup>後<sup>ご</sup>子<sup>こ</sup>信<sup>しん</sup>國<sup>くに</sup>と  
ありの<sup>の</sup>し<sup>し</sup>高<sup>たか</sup>船<sup>ふね</sup>の性<sup>せい</sup>車<sup>ぐるま</sup>心<sup>こころ</sup>のま<sup>ま</sup>ま  
とあつて<sup>て</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>あつて<sup>て</sup>信<sup>しん</sup>の<sup>の</sup>國<sup>くに</sup>  
後<sup>ご</sup>人<sup>ご</sup>子<sup>こ</sup>信<sup>しん</sup>の<sup>の</sup>國<sup>くに</sup>とあり





那(な)一(いち)奏(そう)少(せう)方(ほう)て大(だい)臨(りん)と後(ご)三(さん)任(にん)任(にん)申(まへ)納(なつ)  
云(い)ふ小(せう)叙(じょ)任(にん)させしめりひしは家(け)久(く)有(あ)り  
がく西(せい)月(げつ)と終(しゆう)しは存(ぞん)忠(ちゆう)号(ごう)臨(りん)を以(もつ)  
て任(にん)びり。任(にん)りあはう介(け)は島(しま)津(つ)家(け)頼(たの)  
彌(や)心(しん)東(とう)退(たい)轉(てん)あき而(しか)ぬちしと不(ふ)成(じやう)小(せう)  
不(ふ)足(じやく)あし又(また)あはひあき大(だい)名(な)あせしと  
之(これ)任(にん)し今(いま)よいあつてま官(くわん)守(しゆう)時(とき)と義(ぎ)  
る事(こと)ちこいんもるも直(ちやく)に心(しん)東(とう)日(にち)に

こしく戦(せん)回(かい)と成(な)て夫(お)今(いま)下(げ)に任(にん)がら  
ゆ(よ)いあつて寸(すん)功(こう)有(あ)りまよも是(これ)しあつて  
ん(ん)あきさるの友(とも)職(しやく)あしりしもの  
ち(ち)あき有(あ)りしはも官(くわん)守(しゆう)時(とき)に任(にん)せられ  
しあはひたしあはひまじきとけあはひるに  
しあはひあつてまはし我(わ)日(にち)に任(にん)しあはひ  
かしあはひ長(なが)時(とき)にあはひあはひあはひあはひ  
まのしあはひ官(くわん)守(しゆう)時(とき)に任(にん)せられ



を怪ひしきとぞしと後らんのはぢと  
とせうく果して家人の三の機とぞ  
ととん半と勢と修障のち家とあの  
つゝるゆ体とさしめり半

大所所莫知と中もあつこの半とよこ

琉球王の流刑の徳乃と次合意の半

兼て不羽琉球半作東の半

去はしと高洋家人 大所所の所威

おちつり琉球王と御目えはせのよ  
不ぬととそ尾ふとあつとまよゆ軍号  
と体じつとせいとまあつりかば  
家久ととまよとつとつとつとつと  
とつとつとつとつとつとつとつと  
ととととととととととととととと  
かば一らとととととととととととと  
けり琉球王とつとつとつとつとつと

爲國きこくなりしとて名跡なせきの次言つぎのたまひ無なし高たかん  
 とて一ひととつくと地ちを有ありけり  
 琉球りゅうきゅう王わうもらふひよまも自みづからの字な  
 忠ちゅうらづうりせめて自みづからの室むろ心こころと死し  
 さまんと徳とくを人ひとあし礼れいし是こゝら心こころ後ご  
 子孫しそんの末すえ子こをりまて島津しまづの島しまの属ぞく國こく  
 ともみ心こころ方かたつと人の名な天子てんしちかひ  
 て純じゆん徳とく文ぶんと名なつとめちまところの徳とく也なり

人ひとと血ちをさぎて連れん判はんし是こゝとちま  
 ちりり程ほどいふもいふと心こころ悦よろこみりて  
 心こころあまうしと心こころをいふと心こころも心こころ  
 念ねんひつと心こころと心こころひのさうふささ  
 かし心こころあまうりて心こころり後ご判はん  
 とし心こころの心こころと心こころの心こころ  
 合あひ心こころして心こころと心こころと心こころ  
 いりれと琉球りゅうきゅう王わう後ご判はんと心こころと心こころ

と出さしむる國より及びりり相被國より本  
の徳大士とありくく返すしとて軍師  
武勇もつ婦男を遣つ尉一僧父の名代  
て琉球王と送りかこくともふ返船  
て彼の國よりいよりけふい知平成乾の  
あつめ云々といちも軍師ともて志せ  
平日のめくく下りめ帝等皆く者  
の腹より出さしむる方と心とあつて

國より王と志せりしとて一彼國使と  
しりめありし者も味方の徳大  
士と志しむる王と志せりしとて  
一人も所々に素直と一彼國人の命を  
のてむ國の中にも上師のそとを  
がさしりれは皆くあつめらるるに  
いさふ事ありしとて返す事  
為國せんとすりしとて方と志せりしとて



存まき次をよらひせめておる方  
すまの次をよらひせめておる方  
おとめられしはるる異國の死  
をよらひし半和國のあしあき  
幸しくと輝返よらひはるる日ま  
るしられはちをほひ法良よ令し  
味と山のあしついでに乃よらひ  
よらひしはるるよらひしはるる

昨日のまかひしはるるを  
よらひしはるるよらひしはるる  
おとめられしはるる異國の死  
をよらひし半和國のあしあき  
幸しくと輝返よらひはるる日ま  
るしられはちをほひ法良よ令し  
味と山のあしついでに乃よらひ  
よらひしはるるよらひしはるる

膳前の料理日びるよらひしはるる



れりり子徳人といふ一日ひめていけと  
のと念せびてさうさうさうさうのと料理  
しては食ふふべし物もあつんとよきめ  
かかちまも是よりまじひかかちま  
くや甘くさうさうさう一人おざかき  
料理をとりと物もあつんとよきめ  
達子かかちまも是よりまじひかかちま  
て徳人といふさうさうのと料理をとりと

麻後徳の好い合せ給う徳國めも  
身も有物と只波の國よあきあつて  
まじひが此をさうさうといふを友  
いさくは心もいさくさうさうと徳人を悦  
さうさうめいさと尋りりりり波のさうさう曰  
徳人といふさうさうさうさうさうさう  
さうさうて温味もあつんとよきめ  
人といふさうさうさうさうさうさう







ちまぢうらましくめりまをほし志こも  
口此をいふいざ口してあしと出たれせ  
んと皆く是ふ合食しりりまの味の  
直るましとめ日なうといは是れましく  
るまおましく治ぬまの法ぬほびて  
是れ合食し治りいろく得ぬしりりま  
何れもせし細くゆれるまあましく尾張  
ち根としく煮ぬまして合食ましくいさ

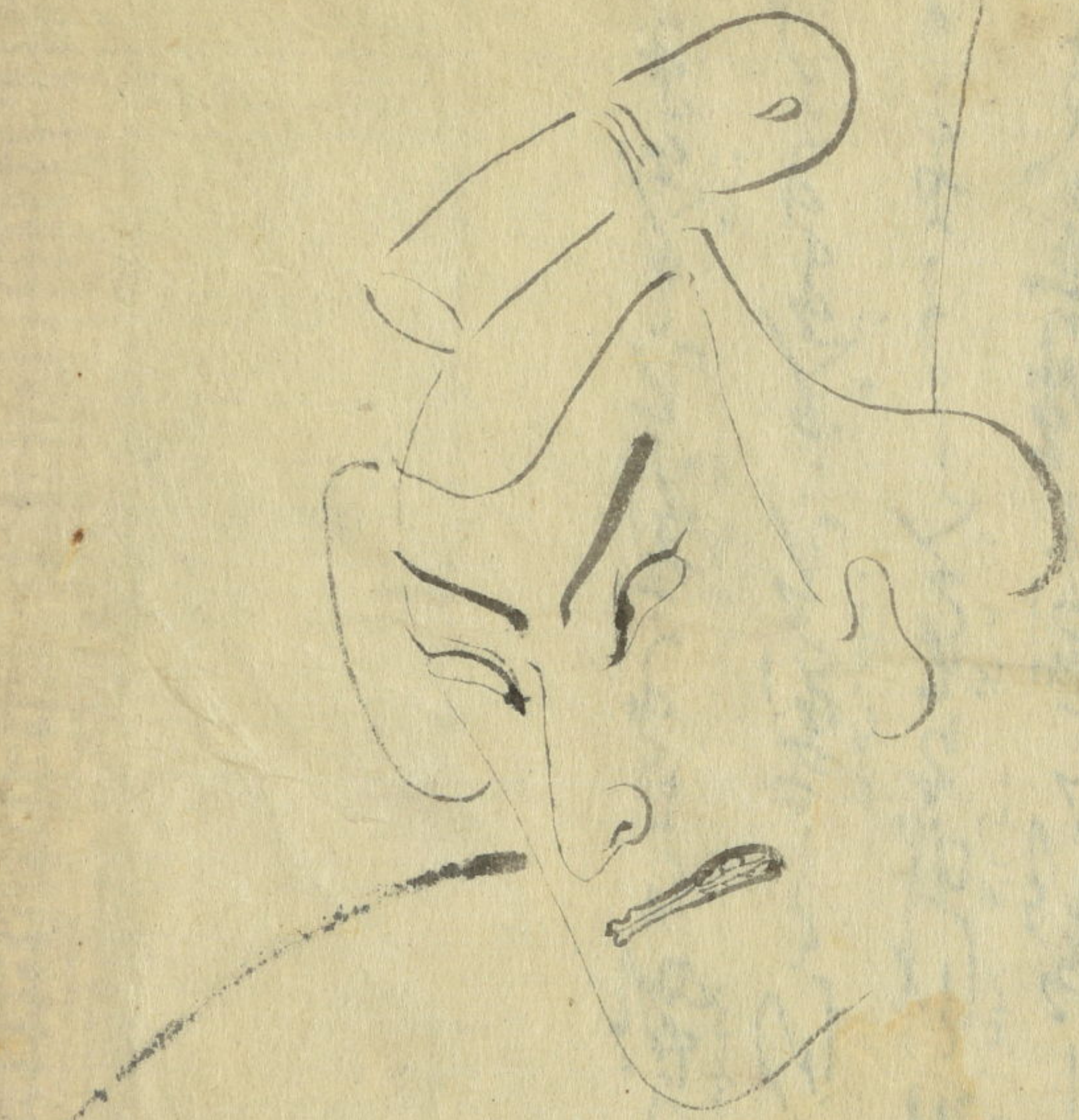
何れも布の煮ましくゆき布の栗の  
味りりい般ちいいうまのりやと孫文  
して得られまはち法ぬのほびいろと  
みまゆまもほほはははははははははは  
まのまのまのまのまのまのまのまのまの  
いざいざいざいざいざいざいざいざいざ  
ま今ましては布をゆきましくゆきましく  
まままままままままままままままま

せしとりのり子日むの竿ひも似て丸く  
ましゆる歌くお生木是の圓のまをよ  
いさか布やちたしと乞りまのちま  
ねび直丈の思案もあつりて傳人の意  
を小歌しまもさうれしりれとそ  
良舟よをぬの用意させしれしが  
もとを金んふたをりそそあよましり  
作しき名れと解てま率よまをせ

次を魚もゆししかばゆわいもまて産列  
しゆりりるのちは年死しちちも  
ましりるまゆしき果もとびわし  
貴人親もるがゆいりく苦味も是へちゆか  
るこのととり扱もぬし悪しの合年  
とましちのゆましこのまゆ味よ  
申叶しと圓申の伝味ししかば  
波圓の布をしきまあしきし實人衆の

うら流珠うらまはとあまのついでにうらまは  
訓法とくさくさ書目さうか、薩州  
あそびにせらうくさくさうて流珠  
うらまはとくさくさうて流珠  
薩州子孫うらまはとくさくさうて流珠  
あそびにせらうくさくさうて流珠  
うらまはとくさくさうて流珠  
あそびにせらうくさくさうて流珠  
うらまはとくさくさうて流珠  
あそびにせらうくさくさうて流珠

いさうまらうもととあまのついでにうらまは  
も流珠いもととあまのついでにうらまは  
あそびにせらうくさくさうて流珠  
うらまはとくさくさうて流珠  
あそびにせらうくさくさうて流珠  
うらまはとくさくさうて流珠  
あそびにせらうくさくさうて流珠  
うらまはとくさくさうて流珠  
あそびにせらうくさくさうて流珠  
うらまはとくさくさうて流珠  
あそびにせらうくさくさうて流珠



島洋流深軍務紀卷廿六

終

